

## 令和7年度 第2回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：令和8年2月17日(火) 14時00分～15時20分

場 所：リーパスプラザこが 中会議室

出 席：審議会委員 都甲康至会長、吉田公子副会長、谷口治委員、柴田智子委員、  
松田信一郎委員、伊藤綾委員、村山公之委員、大音明洋委員  
事務局 桐原誠教育部長、甲斐健史文化課長、文化振興係(平係長他1名)

欠 席：杉村幸一歴史資料館長

傍聴者：なし

### 配布資料

- ① レジューメ(差し替え)
- ② 資料1-1 団体アンケート(毎年度版)(事前配布)
- ③ 資料1-2 団体アンケート(毎年度版)の評価について(事前配布)
- ④ 資料2 第2期古賀市文化芸術振興計画の進捗管理について(事前配布)
- ⑤ 資料3 第2期古賀市文化芸術振興計画に基づく市民アンケートについて(差し替え)
- ⑥ 令和3年度歴史資料館年間報告書(当日配布)

### 1 開会のことば

### 2 会長あいさつ

### 3 報告事項

### 4 協議事項

#### (1) 団体アンケートについて

- ① 項目及び内容について
- ② 評価について
- ③ 実施時期について

都甲会長：はい、それでは協議事項に入っていきたいと思います。前回からの継続になるかと思いますが、「団体アンケートについて」と言うことで、その項目、内容、評価等、それから時期について協議していきたいと思います。まず、この資料について、1の1と1の2がありますが、資料の方の説明を事務局にさせていただけますでしょうか。評価とか時期とも関係してきますので、資料の説明を先にお願ひしたいと思います。

では、事務局、よろしくお願ひいたします。

事務局：私の方から、協議事項(1)「団体アンケートについて」の資料の説明をさせていただきます。

まず「①項目及び内容について」説明します。資料1-1をご確認ください。前回の審議会時に、団体の活動内容の振り返りとし活用してもらい及び第2期計画に基づき団体の活動状況について確認するため、アンケートを毎年度取っていくという運びになったかと思います。その

毎年度版を会長と協議し、資料 1-1 のとおりとなっています。アンケートは、WEB アンケートシステムを利用して、回答していただくことを想定しています。これはご協力いただく団体数が多い場合は、紙の場合、集計が容易ではないためです。団体さんへは、QR コードを付しているとおり、そちらから回答していただこうと思っています。WEB アンケートとは仕様が異なりますが、内容の確認のため、資料 1-1 にて提示させていただいています。

さて、内容についてですが、毎年度版ということで、しっかり聞いていく、というよりも、振り返りがしやすいようにということで項目を設けています。大きくは 3 つに分かれています。

一つめは団体の活動について、二つめは計画の団体の活動目標に基づく内容について、三つめは計画に基づいて団体にお聞きしたいこと、と設定しています。三つめは協議事項「②評価について」にて説明します。まず、一つめの団体の活動は、どの団体が日頃いつ・どこで・どのような活動をしているかお答えいただくものです。

二つめは、団体の活動が「団体の活動目標」のどこに該当し、振り返るとどう評価できるかをお答えいただくものです。前回、試しに実施してみた内容では、この活動目標の内容が分かりづらいとありましたので、それぞれの活動目標のあとに () 書きで、この目標はこういった内容というものを例として記載しています。

そして、三つめの内容ですが、協議事項「②評価について」の資料 1-2 と併せて説明します。こちらは都甲会長からのご提案で、後ほど補足があるかと思いますが、計画に基づく計画の進捗確認について、団体分についてはアンケートを実施する際に「団体の活動目標」の一部を抽出した設問を設定し、その回答内容から審議会により確認と評価をしていくというものになります。

資料 1-1 のアンケート（毎年度版）では三つめの内容に、その項目を尋ねるということで設定してはどうかということです。そして、次はこの項目について確認するというので、リード文を付しておくということで、最後にその文章を付け足しています。資料 1-2 ではいまの内容を記載しており、皆さまには、2 の評価の項目設定という箇所について次年度分の内容まで決めていただきたいと思います。

そして、協議事項「③実施時期 について」ですが、こちらは確認のための資料です。前回、団体のアンケートの実施時期について、毎年度版と計画の見直し時を取っていく、となりましたので、そのように修正しております。計画の見直し時が、令和 6 年と次の計画を見越しての令和 13 年、それ以外の年を毎年度版としてアンケートを実施していく、ということになったかと思いますが、その確認のための資料になります。説明については以上です。

都甲会長：はい、ありがとうございます。ちょっと説明が流暢だったので、皆さんが、理解されたかどうかちょっと分かりませんが、まず質問等ございましたら先にいただきましょうか。今の資料 1-1 のアンケートの本文案ということと、それからその評価にあたって、まず質問等ございましたらお願いいたします。

谷口委員：すみません。

都甲会長：はい、どうぞ。

谷口委員：こちらの方で Web 版のアンケートを活用して、ということになっているけれども、団体も文化協会とかの団体もかなり高齢化してしまっていて、Web の操作とかちょっと難しい団体もあると思います。だからこの Web 版+紙ベースというのを入れていただいて、紙でも取れるような形がいいかなと思います。若い人たちはパパッと出来るけれど、高齢者の団体とかで、

若い人が入っているところはいいけども、三味線とか高齢者で固まってやられているところはQRコードだけでは難しいと思うので、そのあたりを考慮していただければと思います。

都甲会長：はい。実際には、Web版と紙ベース両方提供してやるというふうになるでしょうね。

事務局：そうですね、なるべく団体さんには、Web版をお願いしつつも、難しいと言われるところもあるとは思いますが、その場合は紙ベースも用意はしようとは思っております。

都甲会長：アンケートの依頼は、どういう案内の仕方になりますかね。例えば、30団体ぐらい、仮に取るとした時に、100とか全部はなかなか難しいと思うので、10 20 30 あったとした場合、団体さんにどういうふうなお願いになりますかね。電話してメールでもなかなか難しそうです。郵送になるのでしょうか。今ふと思いましたけど。どういう案内になるのか、イメージしていますか。

事務局：アンケートのお願いの仕方っていうことでよろしいですかね。今のところ想定しているのは、関係がある文化団体さんのところへお願いをしていくとなります。6年度の内容について確認する7年度に実施した際は、まずアンケートの趣旨について説明をしないとけなかったところがありますので、実際にお会いして説明してお願いをしました。その時の8団体については、前回実施時に「また次もお願いします」ということをお話しておりますので、郵送等にてご案内をしていくと思います。「メールでも可」と言っていただけたら、メールにてご案内を送ろうと思っております。また、新しくお願いしていく文化団体さんに限っては同じような手順を踏まないといけないと思っております。最初はお会いして説明し、その時に「紙をいただきたい」「メールでデータをいただきたい」どちらになるのか分からないですが、確認をさせていただくというところかなと思います。それ以降は、「メールでデータをいただければいいよ」と言われたところはそれで対応し、「ちょっとWebは厳しいかな」と言われたところは、紙をお渡しするという形になるのかなと思っております。

都甲会長：はい、ありがとうございます。お会いして説明をされるというのは、それは、何人かグループがあって、いくつかの団体の代表さんがいくつかある日に来ていただくのか、もう一つ一つ個別に来ていただくイメージなのか、どちらになるのでしょうか。

事務局：はい。例えば、古賀市文化協会さんに所属している団体さんには、お声がけをしようと思っております。この団体さんがまず一堂に会するという場面があれば、その場でお話をしようと思っておりますけれども、その場面がアンケートを取るタイミングでなかった場合に限り、直接やり取りしていくしかないのかなと思っております。

谷口委員：一応、毎年5月が文化協会の総会になります。その時にアンケートの準備ができれば、ご案内をして、一緒にご説明ではないけど、していただこうかと。あとは文化芸術とか、そういったところに代表者がいて、出演者に事前に説明と、あとは順番取りとか、その時の説明で大変集まってもらって出られる。その機会の時だったら協力して、その中で説明するっていう場を設けられると思います。

大音委員：団体さん、最初にあるじゃないですか。こういう方がやりますよと。その時にアドレスは分かってないのですか。

事務局：分かっているところと分かっていないところがありますね。

大音委員：そうですか。そしたら会長が言われたように、パッとそこに流せば、もうわざわざ面倒なことはないかなと思ったのですけども。

事務局：勿論、皆さんがあれば、の話ですけれど。

谷口委員：生涯学習推進課で、リーパスプラザの施設予約する時、団体登録でされているところは優先的に取れる制度があります。その説明会が毎年ありますが、その時に、リーパスプラザの各お部屋とかの説明会の時に、生涯学習推進課さんと協力して、その時に、音楽や舞踊とか、文化団体がほとんど利用されているので、文化協会に所属していない方も、借りている方が沢山いるので、そういうところで説明する機会はあるかと思います。でもここは登録されているので、年間でいろんな市内で文化関係の活動をするときに利用されるという方は、お部屋を練習で取られるので、登録制度に登録しておけば優先的にお部屋が取れるのです。ただ、それは団体の中の古賀市民の数が半数以上とかの規定があり、それに合致する人は全部登録出来るということで、利用者の方はそれを利用しています。

都甲会長：それに関係するかとは思いますが、一つ質問です。今、文化課で、文化芸術団体の連絡先とか関係者名簿とか、なにかそういうものがあるのでしょうか。もし無いのであれば、せつくなので、いろんな総会とかの場面で集まった時に説明するのはいいですが、まずアンケートを取ったりする、いろんな時の基礎となる、関係者名簿を整備された方が、今後よろしいのかなと思います。もし無いのであれば、若しくは紛れているのであれば、それを一度引っ張り出せばいいかとは思いますが、どのような感じでしょうか。

事務局：そうですね。そういったまとまった名簿というのは、文化課では持っていないので、今後、こういった機会を捉えたりとか、整理できればと思います。

都甲会長：少しずつ作られていけばいいかと思うので、なにかそういうことをされるといいかなと思います。案内を出すときも、いろんな回答が返ってくる時も、それはまた一つ名簿の整理をするということでもいいかなと思います。一つ、目途としては百あるぐらいじゃないかなとはイメージはしているのですが、二、三百はないと思うので、目安は百ちょっとぐらいのものではないでしょうか。

谷口委員：個人グループとかで文化活動されている、例えばボランティアとか、文化協会とかいろいろ登録しなくても、好きな人たちが何人か集まって、ボランティア活動して、音楽とかそういうのを施設とかで回られる方は、小さい団体、1人のグループともいらっしゃるのですよね。そういう人を拾うかどうかなんですけど。

都甲会長：まあそれは追々でもいいかもしれない。

事務局：まあ多くは市の文化協会に所属されている団体が多いと思っていますので、そちらから整備をいただくとか、そういうことはできると思います。

都甲会長：じゃあそれでは、名簿を整備をしていくということで、1つ決めたいと思います。それをすると、説明会の時の案内等も楽になるでしょうし、それからあのWebでやれるところがあるとか、どの程度あるのか、それからやっぱり紙ベースで書きたい。と言うところがあるのか、そういう基礎の資料になると思います。ということで、解決方法になるのかなと。

谷口委員：たぶん、Webでする人とWebで出来ない人というのは、年齢層とか環境があるから、そういうのがどこまで文化に関わる人はどっちが多いかの基礎資料みたいなものがあって、今後、Web版にするのか、紙版にするのか、どちらの書き方をどうするかという比率で、後々考えていく材料にはなるかと思います。

都甲会長：はい、ありがとうございます。その他質問がなければ、どうでしょうか。

それでは、少しずついきたいと思います。この資料の1-1のアンケートの1は、どういう団体に活動しているのかというのを、いつ・どこで・どのような活動をしているのかということ

を、聞くというところになっているかと思います。いつ・どこで、それがどのような活動というのは、概要が分かるような形で解決したというようになるかと思います。これが令和7年度の内容になるかと思います。

それから、2の項目は、第2期古賀市文化芸術振興計画云々というのは、活動資料1-2の真ん中あたりに記載の「団体の活動目標」(1)から(6)に対応した設問項目になっていると思います。基本的には集計も考えて、それぞれ尋ねていく項目ですが、「効果が上がっている」「概ね効果が上がっている」「あまり効果が上がっていない」「改善の必要がある」という項目等の言葉を、これは丸を書いてくださいというのがないと書けないかと思います。

事務局：すみません。Webの内容をそのまま持ってきているため、そのような記載になっていません。紙ベースで実施するときにはもう少し書きやすいようにしたいと思っております。

都甲会長：書きやすいようにしていた方がいいかと思います。この大きな質問1の項目と2の項目について、質問ご意見等はないでしょうか。

吉村委員：団体の活動についての「いつ・どこで・どのような」というところが、複数あつたりすると、概要に対しての「いつ・どこで」とかだったら書きやすいかなと思います。出前講座に行くっていうものもあれば、わくわくフェスタに行く、でも、それぞれ「いつ・どこ」でも全然場所と違うと思うので。これ1個だったらいいですけど、複数あるとちょっと書きにくいかなと思いました。

松田委員：団体は複数の活動をしますからね。だから一つだけじゃないですから。その辺を一つだけに絞り込むとか。

吉村委員：一枠にして、例を書いておいて、複数でカッコにして「いつ・どこで」というのを書いてもらうっていうふうにするとか。例があつたら書きやすいかなと思います。

吉田委員：または、一年内に何回活動しましたかで、代表的な活動について一つだけ「いつ・どこで・どんな」を挙げてもらうか、目的によりますよね。全部アンケートで把握された方がいいのか、とにかく数と何か例一つでいいのかっていうところになりますけれども、いかがでしょうか。事務局の方ではどうですか、アンケートを取るゴールというか目的として。

事務局：最初に、団体の活動についてというところで挙げていると思いますが、その次の2の内容に団体さんがどんな活動をしたから次の項目、団体の活動目標が6個あるうちのどこが該当しているから、こういうふうには評価されているだろうと測れればと思っているところがあります。そのため、吉村さんが言っていたように、複数の場合どうしたらいいだろうっていうところについて、代表的なものの記載の方がいいのかなと思っていたのですが、ここについては会長と打ち合わせをして、このように変更しているため、会長のご意見をいただければと思います。

都甲会長：これについて、去年の第2回時の配布資料の中に、前期委員からの進捗管理に関わる提案内容の概要ということで、団体のアンケートについて、何年何月何日時点のような、時期が分かるのがあった方がいいっていう記載があったものに該当しているのかなと思ってはいたのですが、今改めて読み返すと、なんかよくわからない感じになっているかもしれないので、これはどうなのでしょうね。はい、吉田委員、どうぞ。

吉田委員：複数活動されて、やっぱり総合的に、捉えられた方がいいのかなと思います。1個の活動だけで、どうなったかというよりも、この4回活動したら、その4回の活動を通して、1から6の活動目標がどれくらい達成できたかなと、総合的に評価された方がいいじゃないかな。

または、もう一個ずつですね。一つの活動に出前講座だったらこうだったっていうのを6項目、該当する部分だけにはなると思うのですが、1個ずつというよりは総合的な評価の方がその団体の一年間の状況というか、様子がわかるのかなというふうに思いました。

谷口委員：はい。各団体はいろんな、例えば特化したものを、太鼓とか、ダンスとか、踊りとか、日本舞踊とか、特化している人たちに集まると思います。だから団体活動についての活動内容とかだったら発生する発表会とかいうのは、そこに何回しようとも、私の団体は、音楽とか舞踊に対して研鑽するためにという内容を書いて、発表会を年に何回、何月ごろやりますとか、練習はこうして、場所は芸術文化の祭典の時に発表しますとか、童謡まつりとかに参加して発表しますとか、地域のところで出前講座のように福祉施設とかに回ってしますとかで、だんだん年々良くなっているとか、回数が増えているとか、聞いてきた人とか、見た人たちがこういう反応を持って、他の状態に役立っていると思いますっていうのは回答するのかなと思ったのです。スクロールしたら1番めだから、その2番め3番めっていうのは見えないはずだから、最初にQRコード見たとき、これしか出てこないのだったら、自分たちの団体のコンセプトがあるから、それを書くかなと思ったのです。

だから、その個別で例えば出前講座と絞っての記載となると、その団体の活動というか目的が見えなくなる。だから団体の人たちが一年間の反省をする時に、自分たちのコンセプトがこういうことで活動していると、それでどうだったというのがつながるから、私はこれでもいいかなってという気はします。書く側から見た意見です。

大音委員：私も、今、谷口さんが言われたイメージかなと思いました。ここでいう一番というのは、その団体がいくつか色々するかもしれないですけども、その項目があるのだけでも、まず1番めでは「いつ」というのは、その団体が総称して、最初から最後まで、いつまでやりましたというのがきて、そして、「どこで」というのは、大きな場所をいくつかのポイントだけを書くのかなと。書く側としてはね。そして、「どのような」というのは、そこで書いた「どこで」という大きな項目を書くのかなという、たぶんそんなイメージかなと思ったのです。評価という、個別の評価がこの2番のところに来るのかなと思って、それ1番から(1)から回答していかないと。そうすると、その団体がいくつかあるけれども、その(1)から(6)にそれぞれ入ってくる場所があるわけですね。全部がたぶん(1)から(6)ないかもしれないと。

事務局：全部が当てはまるかもしれないし、当てはまらないかもしれませんよね。

大音委員：というイメージで、それでその個別のところのものは、ここで評価を行うのかなというふうに、そうしないとたぶん、事務局も大変になっちゃって、できないじゃないかなと思ったので、一番で最初にいっぱい書きちゃうと評価ができないですね。すみません、僕もかえっているいろいろお願いした手前ですが、そういうイメージでやった方が私個人にとってはいいと思ったのですけれど、そんなイメージじゃないかなと思いました。だいたい谷口さんが描かれているイメージと同じイメージかなと思ったのだけど、ちょっと違いますかね。

谷口委員：いえ、たぶん一緒ですよ。

都甲会長：例えば1と2を逆にしたらダメですかね。最初にその活動目標でどのように対応して、簡単な丸をつけるような。その6項目に対してあって、その中で代表的な活動について教えてくださいとするといかがなものかなと。この1番と2番を逆にする。

谷口委員：団体の活動目標について聞きたいことが色々あって、自分たちの活動は「いつ・どこで」やっていますよ、ということですかね。

都甲会長：それはもしかすると、このいつ・どこで・どんなような活動というのを、一つの四角だけにして、2つか3つ書いておく。多い人は3つあるかなというところで。だから、「いつ・どこで」どのような活動をしているかというのが分かるような内容にしてくださいね、というイメージです。そういう四角が2つないし、3つある。そうすると複数にも、対応できる。

松田委員：まず、アンケートの目的ですよ。目的は何なのかということから、やっぱり作り上げていかないといけないと思うのですが。これは振興計画の進捗状況を把握するためでしたら、アンケートの結果でそれが見えるように作らないといけないと思うのですが。それと前と全然変わったアンケートじゃなくて、ある程度前回と同じでやらないといけないので、去年のアンケートと内容が変わってくると、目的が達成するのか、進捗状況がわかるのかどうか、その判断ができるのか。去年も活動状況に関する団体のアンケートをとっていますよね。

事務局：そうですね。前回の時に取らせていただいた時は、「活動していますか・していませんか」という項目と、それは「市内ですか・市外ですか」という場所のところだけ、これを、「はい・いいえ」という問いだけにしていました。あと会長とお話をしたなかで、もう少し、「いつ・どこで・どのような」というような感じで尋ねた方がいいのかなという話になったため、今回このような形に変えましたけども、今皆さんのお話を聞きながら、どのような活動をしているのかというのは、アンケートを集計した時に、その活動内容だからこういう風になったんだよ、という見え方が分かればいいので、「どのような活動について教えてください」というのを活動内容というのと、「市内、市外」だけを選ぶに変えてみてもいいのかなと思いました。

そういうところで皆さんとイメージを共有したいのですが、「どのような活動していますか」という記述の枠と、「どこで」というところで「古賀市内なのか古賀市外なのかを選ぶだけの項目」にしてしまう。だいたい団体さんは、年間を通して活動されるため、それだったらもう、いつは消してしまって、「どのような活動しているのですか」というシンプルな問いだけにしてしまってはどうかと思いました。これは今皆さんの話を聞きながら思っただけなので、この内容も踏まえてご意見いただけたらと思います。

谷口委員：アンケートの目的は計画の進捗状況を把握したい。

事務局：そうですね。はい。

谷口委員：もう一回決めたものは同じフォーマットで毎年しないと毎年聞けたなというところですね。成果というか、上がったたり下がったり数値化できないですもんね。

事務局：最終的には皆さんに集計結果から本当にですね、今、団体はこうなんだねという「確認」と「評価」をしていただくという形になりますので、1の問いというところよりは2、3がメインになってくると思います。2と3の項目、それを補足するための1の問いがあるのかなとっておりますので。

吉田委員：そうすると、例えば、4回5回活動した内容をすべて細かくアンケートで取るということじゃなくて、概要がわかる項目があったらいいのではないかという話なのかなと思ったのですが、でも、「いつ・どこで・どのような活動内容」、この項目をちょっと変えたらいいのかなと思いました。例えば、年間の活動回数は何回やりましたか。主な活動期間は、夏に集中していたとか主な活動期間というのを聞いて、そして主な活動場所、市内とか市外とかちょっと例を書いて、そして活動内容についてなんか「いつ・どこで」と言われると、回答がすごく求められるというところなのですから、ちょっと聞き方を変えたら、全体の活動全般が分かるような項目になるのかなと思いました。

都甲会長：活動の回数と期間、時期ということですか。

吉田委員：最初に主に年間何回活動されましたか、そして、2つめが主な活動の時期はいつでしたか、そして主な活動場所はどちらでしたか、そして活動内容について。この中でこれはいけないというのがあればとっていいのかなと思います。

大音委員：考え方ですよ。主なものにするのか、ここでいつというの、何月・何月・何月というのをここに書いておいて、そこで何回やりましたというのを、僕はそう思ったのですよ、今、吉田さんが言われているのは、一番メインのものを2つか3つぐらい、そんなイメージですか。

吉田委員：年間の回数4回ってというのが分かれば、「この団体は4回活動したんだ」と。そして、主な活動時期というのは、やっぱり夏休み、子どもを対象にしているから、8月が中心だったとか。4回やったけど、8月が中心だった。で、どこで実施したのか。そして、どのようなことを実施したのか。年間の活動回数と、どこで何やったかぐらいがわかる項目にするのか、今おっしゃられたように、もう何月何日と書いていただくのか。

大音委員：いや、何月に何回、何月に何回というふうにしておけば、それで全体は10回やりましたよとアピールが出来るのか。

都甲会長：どちらかという、やり方だけ、書き方だけですよ。

大音委員：そうですね。吉田さんの話された方がメリハリついていいと思います。でもその時に、私は、こういう団体さんがやりましたよと言える人がいるのかなと、ちょっと分かんないです。

谷口委員：すみません。団体さんとしてもやっぱり、通常の、例えば1週間に1回集まって切磋琢磨すると、あとは公開するイベントの回数とか、もしそういう取り方だったら、月というか、年間何回、研鑽の時間、イベントのところはやっぱり月が関係します。市民オーケストラ6月と12月とか、あの吹奏楽団の毎年5月にあります。団体によって、その発表の月というのが決まっている。決まっているというか、毎年それに合わせて年間プログラムかけて練習会にむけて研鑽を積む。何月とかと言ったら、イベントは何月に実施していますかと。あとは練習というか、それに対して「練習の活動は、何回ですか」としたら、この団体は平均して、一週間に1回やっているとか、6月にしているとか、これはいろんな団体がしようと思っても、日にちとか月が重なりあったり、練習のために場所を取るというのが、実施時期に絡んできません。

だから千鳥苑とか、市内のいろんな施設とか公民館とかでしようとしてもその各団体が入っているから毎月いつするかというのバラバラにあっている。このため、ずっと空き時間を各団体が見て分かるのだったら面白いかもしれない。そういう振り方だったら、イベント、年に何回で、何月何月というのと、普段練習していると、そういう取り方が、木工とか、焼き物とかだったら、毎回皆さんこれで焼いているけど、発表とか、展示とかするとき、何回で何月ぐらいとか。そうすると、毎年展示する月が変わったとか、減ったとか、そういうもので、長期的に見たらこの団体は定期的なイベントが少なくなったとか、そういう自分たちの、あるいはもうちょっと頑張らなくちゃいけないかなとかいう団体側も面白いじゃないけど、役に立つような受け取りなのかなと思います。

吉村委員：イベントと定例活動みたいな。

谷口委員：そうそう。だってみんな回数でも、ごちゃごちゃで、時期とおっしゃいましたけど、やっぱり子どもたちがメインで、夏休みにするとか、夏にするという団体でも、やっぱり

地道に毎月なり、それに合わせて自分たちで研鑽の時間と、あるいは労力を使っているのですね。だからそれは分けた方がいいかと。スポーツでも一緒だと思いますけど、練習があって、試合は何月にあったみたいなの。

都甲会長：それでは歴史的な活動とかだと、どうなりますでしょうか。時期的なものとか。

松田委員：年間ですね。

都甲会長：年間通じて、ですよ。

谷口委員：ただ、定期的にリーパスとかで発表されています。自分たちの研究成果、その研究成果が何月にされているとか、自分たちでこうすると、やっぱり古賀の市民のために、自分たちが知った情報を伝えたいということも、そして、ここを使ったりとか、ここを使って、自分たちの一人一人がこういう研究で山城とか古賀の歴史とかいう形を発表されているので、そういうことがイベントというか、発表の中から、その回数とかも入れた方が、こうメリハリができて、発表するのがだんだん少なくなったら、何しているのかと言えるけれど。

松田委員：活動はいつでもどこでもというのがありますが、ただやっぱり、外回りする場合は、真夏とか冬は少ないとかありますよね。あと、外と屋内もあります。今、高齢者の方が増えてきたので、屋内での活動というのが増えてきています。

だから公募されて、一緒に山を歩いたり、歴史的なものも、歩いて案内されたりもされるのです。だからそういうのも団体によってはいろいろ、普段自分たちだけで踊りとかをするのではなくて、やっぱり多くの古賀の人たちにいろんなことを伝えたいという方が団体としてあるので、イベントの回数があった方。あと時期ですね。

都甲会長：学校ではどうなのですか。アンケートでもいいですし、活動の波とかそういう回数とかなんかあったりしてもいいですか。

村山委員：だから時期がある程度、中学校は入れない関係とか色々あるので、もう毎年同じ時期にしかならないので、通年でコンスタントに、というのは、もう現実的に無理なので…

都甲会長：やっぱり秋口ぐらいになるのですか。

村山委員：そうですね。文化週間は大体もう10月に、ほぼほぼこの学校もその2週間か1週間で固めてしかも入らないですね。

都甲会長：今後、例えば部活動がなくなった場合、どうなのですかね。それも季節的なものがあったりするのでしょうか。

村山委員：部活動の方はですね、文化発表会の方は11月の末に、だいたい中文連の発表会があるので。ただ、実際に吹奏楽もいろんな古賀市のイベントとかに、あと行政区で発表してくれとか、いろんな形で依頼がかかっているんで、まあそれについてはもう、毎年通年というか、一年間かけてお願いがあります。

都甲会長：そうすると、なんか大きな発表会かなんかがあったりするのと、個別で依頼があったりするような感じになるのですか。

村山委員：そうですね。吹奏楽に関してはですね。

都甲会長：なんだか難しいですね。例えば4月からでもいいのですが、4・5・6・7・8月なんか数字を書いて、それに大きなイベントは、二重丸にしてくださいとか、練習は特に書かなくていいですよとか、そういう記号化して見えるようにすると、集計も楽だし、視覚的に分かるようになるかもしれませんね。

村山委員：でも、Webのアンケートを使うから、別に4月から12月のバーと言ってチェック入れてくださいもできるのでは。定例会についてはその通年と、要は月ごとだったら通年チェックしたらもう一年間しているし、そうじゃないところは、やっている月をチェックしてくださいっていうのを。ただしてもらえばいいだけじゃないでしょうか。

アンケート自体はそんなに複雑じゃないかなと思っているのですが、学校でもよく校長会のアンケートは簡単にフォームで作っているの、イベントについては、月をチェックしてくださいと言えば、その集計も自動で入るから、定例の活動についてどういう活動ですか、と言ってやっている月をしてくださいか、通年でやっているか、イベントについては、いつやっているか複数チェックしてくださいと言えば、もうそれだけでいいじゃないですか。

1番上はもう主な活動でよければ、主な活動について、団体名を入れてくださいと言ったら、結局その団体名について答えられるから、もう別にそれが複数取るのであれば、団体名1、2と付けといて、その分2つ答えてくださいでもいいし、アンケートが複雑になるのだったら、主な団体名だけ書いてもらって、それについて下のアンケートに答えてくださいだから、この下の(1)から(6)を、その時期とかイベントとかを増やして入れればいいじゃないのかなとか、思いました。

都甲会長：そんな感じがします。

事務局：事務局としては、この団体がどういった活動をしているかという、そこが聞ければいいのかなと思っています。そして、2番以降がやはり1番聞きたいところです。このため、いつどこでというのは、そこまで重要視してないというか、そういった感じで考えています。

都甲会長：たぶん主な発表会とか、そういう活動の時期ぐらいは聞くとか、それぐらいがいいのかなと思います。あと、たぶん、おそらく市内だけではなくて、市外にもやられていらっしゃる団体さんがいるので、そこは把握しておいた方がいいと思いますね。だから基本、その二つが来るのではないかなと思います。

事務局：たぶん、昨年度もなんかそういった感じで聞かれてあったと思います。

都甲会長：市外がよく分からなかったところがあるので、それがどこまでの市外で活動されているのかぐらいが、あと分かればもういいのかなという感じだと思います。ということで、少し書きやすいようにアンケートを修正するというところでよろしいですかね。

事務局：団体の方には負担にならないようにしたいと思っています。

都甲会長：それから、今ふと思ったのですが、アンケートをWebでやられた場合もタブレットみたいなものみたいなものを貸与することとか、もしくはそれのできるようなことはできるものですかね。よく学校で結構タブレットありますよね。ああいうのを文化課のところは、あるのでしょうか。

事務局：対応というのは、数がそんなにないので、難しいかと思いますが、例えば文化課に置いていて、そこでしてもらうとか、集まった場所に持っていくとかはできるかもしれないですね。

都甲会長：数台なんか持つといて、というのが今後必要になってくるかもしれないですね。それで、手書きじゃないけれど、入力をしたりとか。あともう本当选択肢をポンポンってやるぐらいで、簡単にしていた方がいいでしょうね。今後、集計のことも考えて。

事務局：それならば、いろいろ設問は作れると思います。どこで活動しているかとか、細かく。

先ほどのご提案いただいたような形でできるかもしれませんね。紙だとなかなかそれが難しいかなと思います。

都甲会長：パソコン立ち上げるとまた色々あつたりするけれど、タブレット端末だったら、比較的にはなんかやれそうな気がしますね。ちょっとそういう工夫もするというにしておきたいかなと思います。よろしいですかね。

松田委員：活動団体が回答するとき、文化協会とか生涯学習推進課とか、つながり広場とか、そういうところに所属しておられれば、そちらの情報団体の方から協力してもらって、お手伝いしてもらって入力するとかできると思います。それ以外ちょっと把握してないので。あとは個別のところはどうするかですね。

都甲会長：まあ、一度に最初から全部 100%やるとか、なかなか無理だと思います。徐々にやっていくように積み上げていくというような形になるかなと思います。

都甲会長：そして、大きな項目の3番目の項目というのが、ページでいきますと、資料1-1の3番目のところなのですが「第2期古賀市文化芸術振興計画のキーワードである「古賀の「たから」について」お尋ねします」という、この「たから」についての質問になっています。これは、資料1-2、要するに、あの団体の活動目標の中で、6項目あるわけですがけれども、その中の一つをピックアップして、特に重点的に、毎年一つを聞いていくというふうにしたらいかがなものかということで、次のアンケートについては、この「たから」というのを、確かに継続にもなるかと思いますがけれども、聞いていくということではいかがかなと、ここに載せているものです。

これを、次のアンケートをするとしたら、令和7年度として聞くものについてはいかがかなと。その次は、もう1回「たから」でもいいし、もしくは団体の活動目標の一番めの内容を重点的に聞いてみるとか、順番に聞いていく、というのはどうかと思うのです。

谷口委員：アンケートが毎年同じ質問をしないと、動向が図れなくないですか。

都甲会長：アンケートの項目としては1番めと2番めは変えない、レギュラーというか、定期的なずっと変わらないもので比べていくもので、3番めはその都度必要に応じて変えていくと。特に聞きたいものをアンケートで取っていくというふうにしたらどうかかなと。

谷口委員：通常は1と2が、定例データを取るということで。そして次に、審議会とかで、他が必要な場合とかで変えたりとか、なくしたりとか。

都甲会長：割とここの足すものが1つないし、もしかすると年によって、聞くことがある場合は2つになるかもしれません。

谷口委員：古賀の「たから」が一番大事だから。これは毎年ですね。

都甲会長：毎年にしてもいいとは思いますが。

谷口委員：「たから」ってその世代によって違っていく。毎年やっていて、ここで書いている内容は、古賀の「たから」はどういう風に皆さんとか市民の方が映っているのかなというの、動向では面白いかなと思います。

そして、とる、とらないではないですけど、2年に1回でもいいけど、あの「たから」ってあんまり変わらないけど、時代が変わるごとに、世代が変わるごとに変わっていくのが、やっぱり「たから」というか、新しい古賀の発見とかが、また「たから」に増えてくるので、定期的にこれは入れた方がいいかなと思います。

これは、怒られるかもしれませんが、これちょっと、スマホでこれ回答入れているのですが、ちょっとやっているのですが、あの2項目の分で、芸術振興計画のページ記載のというところが出てくるけど、Web であのページで映るような形にしてみてもいいのではないかなと思うんですね。で、もしWeb 版だと、概要のこれ、こう見たら13ページかなと思うのですが、そのページの部分だけでは他の目的が出ないです。団体の活動目標というところがちょっと開いて、「あ、そういうものだな」とアンケートに進む方がいいかなと。紙ベースはその部分だけを置くかなんかしていくか、説明するという形でいいかなと思います。

「たから」が一番大事だなと思っているので、これプラスアルファで毎年おっしゃったように、2年に1回か3年に1回必ず取るけども、これは定期的に知りたいなと私自身は思っています。毎年ではなくて2年とか3年でも必ず周期を決めてやった方が、推移が分かったりするのではないかな。

都甲会長：これ前回の時、何が「たから」として出てきたのでしたかね。前回、令和6年度はちょっと記憶がないのですが、覚えていらっしゃるでしょうか。

事務局：アンケート取りましたね。

都甲会長：どんなものが「たから」として出てきたかというか、覚えているのがあります。

事務局：文化財とか歴史的建造物のほか、リーパスの大ホールとか、公民館のボランティア団体、演奏されている団体さんとか、古賀の子どもたちとか。

都甲会長：抽象的だったんですね。

事務局：基本的にはそうでしたが、もうちょっと具体的な名称とかでいえば、船原古墳とか、そういうものを出されてたりとかはありますね。

谷口委員：この前、別に取りられていましたよね。あのシールを貼って、古賀の「たから」とはなんだと。あの結果とかはなんか見れるのかなとか思っていたのですか…

事務局：実施しまして、あちらもお出しできればいいなと思っていたのですが、こちらもなかなか抽象的な表現だったりとか、子どもたちが友達の名前を書かれていたりとかが多く、今日、お見せできなかったです。

松田委員：具体的に書かれて、様々な「たから」がありまして、歴史資料館で調査じゃなくて、図書館の入り口のところで何日か掲示していましたものね。一ヶ月ぐらいだから。うん。私もいっぱい書きました。

事務局：ありがとうございます。先ほどのとおりのため、今日はお出しできなくて申し訳ないのですが、具体名を伏せて挙げるならば、幼稚園の名前を書かれていたりとか、小学校の名前書かれていたりとか、古賀の自然をあげられていたりとか、ありましたね。本当にいろんなものをあげてくださっていました。アンケートを答えるという人によって、考え方が変わるので。それぞれの感じ方や考え方、捉え方で変わると思うので、もしかしたら何年かに1回って、スパンを取った方がいいのかもしれないですね。

都甲会長：これは個人的なことになるのですが、先日、筑前さんの博多包丁ってなかなか買えないじゃないですか。古賀市のふるさと納税になっていますけれど。それがたまたま、あの大丸の地下2階で日曜日からやっていて、早速行ってきました。始まる前から20人ぐらい並んでいて、すごい。博多包丁自身を今作っているのが、その筑前さんと、博多区の美野島というところに、大庭さんという方がいらっしゃるのですが、もう94、95歳かな？もうその二人し

かないですよ。博多区の方もなくなっちゃうのだろうな。そうすると、筑前さんも難しくなってくるのかなと。そういったところが「たから」だと思っているのですけれどね。

谷口委員：あそこは、工業用の刃とかも作られているから、こっちの刃を包丁の刃とか、なかなか作れないような気がするのですよ。あの食品用のあの替刃、特殊な刃を作るから、全国に工業用の刃、食品とか切ったりとか、あっち側が多いみたいですよ。すごいですね。ただ1年2年ってオーダーかけていく。買えればいい方だけど。

都甲会長：あの店の包丁は即売なので。この前、買えましたよ。お一人様というか、一家に1件ぐらい、一つぐらいしか無理なので。いや、なかなかあれは「たから」だと僕は思っています。個人的に、というのが「たから」かな。きっといろいろあると思うのですけどね。

まあ、その次に7年度版は「たから」で進めるとして、8年度版はこのまま、今日時点ではこの活動目標の順番に聞いていくというぐらいにしておいていいですかね。またなにか、この2、3か月の時にこれも聞きたいとかという聞くべきだとかというのは、ずっと考えているかもしれないし、それはちょっと出たときに考えればいかなと思うのですがよろしいですかね。

では順番に進めていくということで8年度版は(1)になるので、「たから」が資料1-2の項目の(5)と考えると順番が…となってしまいますが、9年版はその時に考えてみようかなとは思いますが。結果、1、2、3、4って順番にとりあえず実施して、変われば変わると。もうそれは臨機応変に進めるというふうにしていいかなと思います。ということで、議事の中では、①と②を進めていって、③実施時期ということで、これも今の協議の中で話は出ていますが、資料2の中で毎年分をやっている、次の見直しと思われる令和13年頃に、プラスアルファでいくつか必要な事項をプラスして、アンケートを実施していくということになるかなと思います。というようなところでよろしいでしょうか。このアンケートを令和7年度版ということで、これを実施するのが、例えば文化協会さんの総会か何かのときをお願いするようになってくるかな、ということでよろしいですかね。

事務局：そうですね。最初はそのような時期かなと思います。

都甲会長：そういう時期でいいということでもよろしいですか。それを目処に合わせて、団体名簿等を整備していくということができるかと思えます。以上が協議事項の(1)のアンケートについてかと思えます。その他何か全体の協議するのはこの委員では今日が最後だと思いますので、何か言っておきたいこととか、何かご意見とかございましたら、この場でいただければと思います。

谷口委員：すみません、お願いではないのですが、歴史資料館の年間報告書をちょっと見ていまして、今、私、発掘作業員の調査をしているんですよ。実はもう甕棺とかもいっぱい出ています。今年とか、鬼のように甕棺が出てきて大変だったのですけれど、子どもたちに古賀の古い歴史とか、たからとかで、この中の歴史資料館として子どもさんたちに体験として、遺構調査とかそういうのを2、3日でもできたらいいなと思っているのですが。うまく現場があって、募集期間があって、いいものが出ると、土器が出るとか、そういう状態の時に、小学校、中学生ぐらいに、どうやって発掘しているのか。吉野ヶ里とかでもよくされていると思うのですけれど、そういうのは古賀でやったらどうかと思います。その時に作業員たちが、土に汚れて実施していますけれど、子どもたちと一緒に掘り方とか、一緒に遺構を調査するというのをしてもらってはどうかと思います。古賀は本当にいっぱいあるんですよ、本当にね。

甕棺が8個ぐらい出たのかな。何個か私もよく知らないけれど、もう綺麗な形の甕棺とか、それとかもうお墓だらけなんですよ。甕棺って、一般庶民は普通の土葬をするので、普通の土とかお墓に入れて、その後ちょっと板かけて粘土でかぶせるようなお墓がもういっぱい出ているのです。そういう時代、今暮らしている場所で、もう2000年3000年前、縄文弥生からずっと古賀に人が住んでいて、暮らしていたのだなというのは、歴史資料館でものを見るよりも、自分たちでこうやって体験して、それが出てきたら素晴らしい。子どもがやっぱり古賀に愛着湧くのじゃないかなと。だから、もし機会があれば、歴史資料館の講座として、子どもたちの講座として、なんかそういう機会を作っていただければと思います。

青柳街道が通っていて、あの辺にいろんな街道というのだとか茶店とかがあったのかもしれないけど、昔の道とかも。石とかを固めて、街道みたいなのがあったりとかするので、もうあちこちほとんど古賀の「たから」ですね。松田さんから怒られるかもしれない。

松田委員：筑紫野線の周辺に出ていますね。去年からいろいろ、歴史資料館の館長さんほどではないですが、比較されて、子どもさんたちにもなかなか好評ですね、集まって作ったり。だから今言われた現場を見せてもらうというのは、学校単位では忙しいから、個別で募集して実施されたら、結構集まりますからね。

谷口委員：文化財係さんの方で実施するかもしれないです。子ども、孫好きの作業員たちが一緒に発掘しているから、その時に入ってもらえば、楽しいかなと思います。

事務局：そうですね、体験という貴重な経験だからですよ。実施できるかというところは、文化課の中で一度整理しないといけないかなと思いますので、今、即答はできないので申し訳ないですが、ご意見ありがとうございます。

谷口委員：そんな機会があればと思います。

都甲会長：他にございますでしょうか。なければ一旦ここでお返しをして、あと全体スケジュールでいくと、アンケートについて新しい委員を含めて、事務局の方から新年度の開催連絡があるかと思います。では、進行を事務局に戻したいと思います。はい、どうもありがとうございました。

5 その他

6 閉会のことば